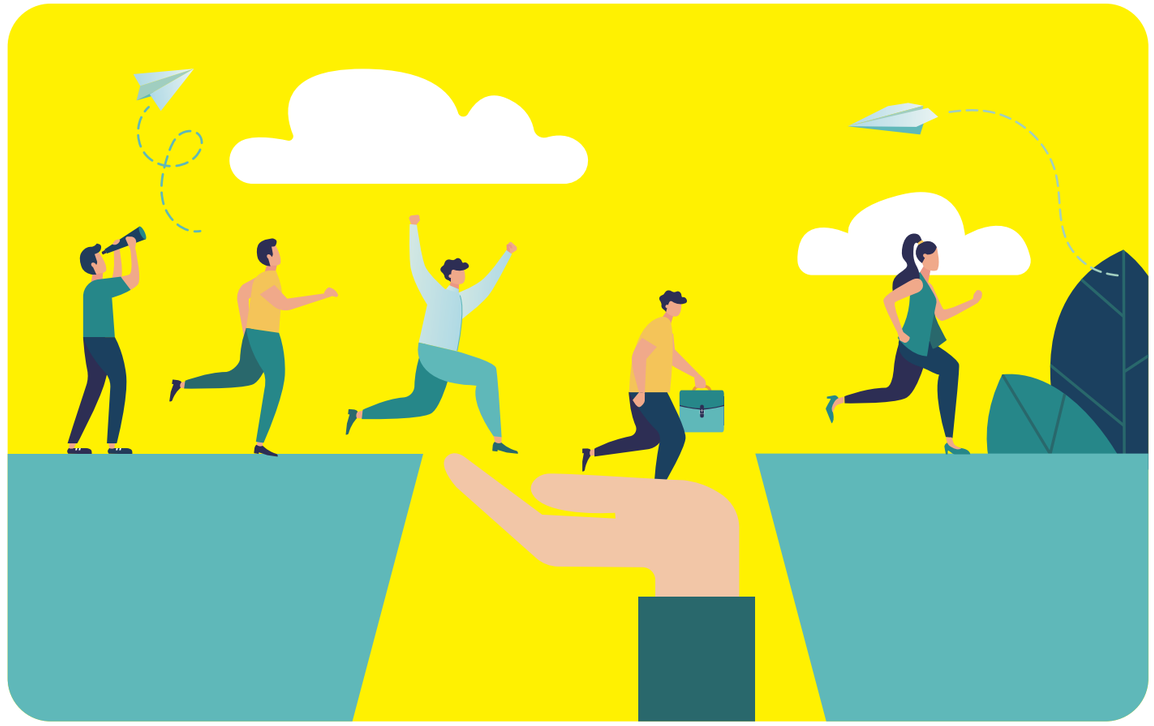
人間科学研究所

Institute of Human Sciences



「対人援助」の理論知と実践知を融合し 社会課題を解決する新たな方法論を創造する

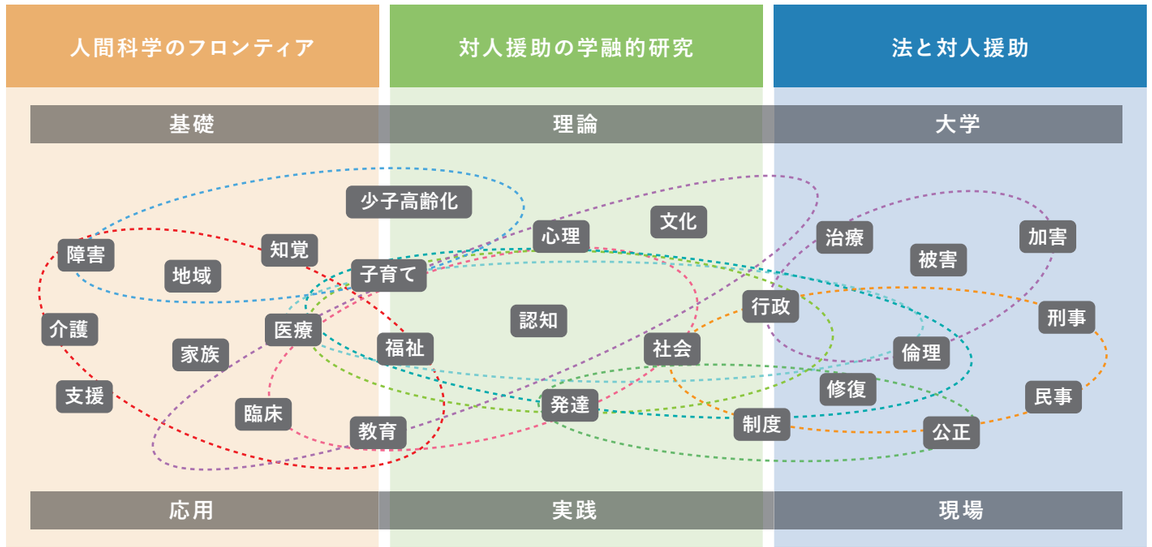
人間科学研究所は、「教育科学研究所」（1990年設立）を前身とし、広く人間と社会に関わる総合的・学際的研究を行うことを目的として2000年に設立された研究所です。心理学、教育学、社会学、福祉学、法学、医学など多様な学問領域（学範＝ディシプリン）に関わる研究をすすめています。

研究所の特徴は、「対人援助」に関する理論知と実践知の有機的な融合に向けて、個別の学問領域での進展やそれらの共同（学際的研究）だけでなく、具体的社会課題の解決のために、新しい方法論を創造しつつ新しい研究を開拓する「学融的研究」とその社会実装に取り組んでいることです。また、現実の課題に直結する応用研究だけでなく、さまざまな課題に共通する基礎研究、研究方法などを含む理論的研究についても取り組んでいます。

近年の研究プロジェクトが取り組んでいる事項の例としては、シームレスな対人援助、アジア諸国での子育て支援の展開、人工知能、インクルーシブな医療・社会サービス、療育プログラム開発、高齢者における運動機能の変化、自閉症スペクトラム障害、文脈的行動科学（CBS）、子ども・若者ケアラー支援、社会的養護、キャリア支援、就労自立支援、若者支援、トラウマとレジリエンス、修復的司法、司法面接、混合研究法、えん罪救済、供述鑑定などがあります。

本研究所では50名以上の専任教員・研究員の参画のもと、約30の研究プロジェクトが進められており、中学・高校の教諭、刑事司法機関の職員、福祉・心理の専門職、ソーシャルワーカー、地域の方々と協力し、地域や社会に根差した研究活動を進めています。同時に、研究機関として培ってきたグローバルなネットワークを活用して、国際共同研究にも参加しております。研究活動には大学院生や若手研究者も多く参加し、次代の研究者の育成を担っています。

対人援助



障がい者の就労支援の ための実習

高齢者の認知機能に 関する実験

幼児の発達を 理解するための行動観察

裁判員心理分析の ための模擬裁判

実務家や市民を 交えたシンポジウム

衣笠キャンパス創思館を 拠点とした研究展開

人間科学研究所では、現代の多層的な社会課題に対し、「基礎―理論―大学」と「応用―実践―現場」の2つの柱を軸とし、多くの研究プロジェクトが展開されています。各プロジェクト内の連携は、異なるディシプリンを持った研究者間の協働によって支えられています。

主な研究テーマ

- 人工知能（会話エージェント）を応用した対人支援
- 子ども・若者ケアラー支援に関するアクション・リサーチ
- 若者の生きる社会の状況と支援に関する研究
- 社会的養護のアフターケアに関する研究
- シームレスな対人援助の開発
- 子育て支援のためのコホート研究（いばらきコホート）
- アジア諸国の女性就労支援
- 障害のある学生へのアクセス保障
- 就労支援、学習支援、キャリア支援
- ナラティブ研究、混合研究の方法論研究
- 供述鑑定、証拠の信頼性、司法面接の法心理研究
- えん罪被害救済に関わる研究
- 修復的司法のあり方についての研究
- 高齢者の運動実行機能、人の記憶に関する研究
- 知覚・認知の基礎的研究
- インクルーシブ社会・医療サービスに関する研究

研究所長：村本 邦子（人間科学研究科 教授）
主な研究拠点：衣笠キャンパス
お問い合わせ：立命館大学 研究部 衣笠リサーチオフィス内 人間科学研究所事務局
TEL：075-465-8358 FAX：075-465-8245 ✉：ningen@st.ritsumei.ac.jp https://www.ritsumeihuman.com